

公益法人 第16期

2026（令和8）年度

事業計画書

2026年4月1日から

2027年3月31日まで

公益財団法人

ベルマーク教育助成財団

《事業計画 基本方針》

- ・ [公益事業1] 学校、企業と協力してベルマーク運動を継続する
- ・ [公益事業2] へき地校・病院内学校・被災校等への支援に努める
- ・ [財団運営] コロナ禍後、物価高騰などの影響を受ける中、新たな事業展開を目指す。また、経費削減を念頭にした安定運営と、運動参加団体の利便性を高める改革にも引き続き取り組む

《総説》

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業2は、公益事業1にともなって発生する財団への寄付を原資にして、生徒数が少なくマーク集めが困難であるへき地校、災害被災校、病院内学級等に財団が教材などを寄付します。ベルマークは事業2を実施するために、事業1の仕組みとともに1960年に始まりました。

事業1、事業2の継続が財団の使命です。すべてにおいて物価高騰の影響を受けながらも、安定経営のために財務体質強化に努めます。

《現況》

前提となる現況は以下のとおりです

参加団体（学校等） 25,068 団体(前年比 98.3% 2026年1月末現在)

協賛会社（市場調査費提供会社） 43 社(2026年1月現在)

協力会社（教材販売および寄付） 13 社(2026年1月現在)

財団職員数 常勤 12 人(2026年1月現在)

以上を前提に、2026年度の基本方針は以下のようになります。

参加団体が1年間に集める点数 2.4 億点/年度

参加団体が購入する教材費 3 億円/年度

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助する支払い寄付金 4,370 万円/年度

財団経常費用予算 8 億 5,959 万円

《公益事業1》

- ・ 目標とする集票点数 2.4億点／年度
対前年度予算比 100.00%
対前年度実績（予測）比 101.7% +400万点
参加団体（学校等）によるベルマーク集票総計を上記のように設定します。
2026年度は、25年度予測比+400万点と見込んでおります。
- ・ 参加団体数の想定
参加団体（学校、公民館、図書館等）数については、学校合併等の自然減が続いていますが、広報活動による新たな加入も続いており、概ね前年度並みを目指します。
- ・ 参加団体のお買いもの額の想定
約3億円／年度（対前年度予算比 100.0% ±0万円）
お買いもの額の10%に相当する額が、協力会社（教材販売会社）から、財団の支援事業（公益事業2）の原資として寄付されます。2025年度は、商品の全体の値上げ状況が続きましたが、学校事業・イベントの復活や、財団からの積極的なお買いもの促進もあり、ほぼ予算通りの約3億円になる見込みです。前年度実績（予測）比では84.8%の見込みです。26年度も引き続きお買い物を積極的に促し、前年並みを目指します。
- ・ 協賛会社数
2026年度4月1日時点での予定社数 42社
- ・ 協力会社数
2026年度4月1日時点での予定社数 12社
- ・ 新規企業への訪問と勧誘
2024年度にリネットジャパンリサイクル株式会社が新たに協賛参加しましたが、引き続き、ベルマークにふさわしい企業に協賛会社に入ってもらえるよう勧誘活動を継続していきます。
- ・ ベルマーク運動 バーチャル説明会
新学年にともなってPTA活動を担う新役員に向けて、ベルマークの集め方と使い方を説明するものです。コロナ禍以後、社会や学校の環境の変化の中、安全に「無理なく、無駄なく」できるだけ負担のかからないベルマーク運動に参加いただけるよう、参加団体へ丁寧にお知らせし、具体事例を説明する動画をホームページ上にアップして誘導を強化します。
- ・ 刊行物
ベルマーク活動報告書
2017年度からベルマーク財団の活動を分かりやすく紹介した「活動報告書」を作成しています。ベルマークの「活動の現状」を網羅しており、協賛・協力会社にも好評です。財団ホームページ上にも掲載してPRをし、様々な場

面で活用できるようにしています。

- ・ ベルマーク新聞
2018年度からデジタル化を実施しています。ホームページ上で毎月発行しています。タイムリーで新鮮な情報掲載をモットーとし、各参加団体の取り組み、協賛・協力会社からのお知らせ、ボランティア活動などを取材し掲載しています。
- ・ 財団ホームページ
支援先の学校から、子どもたちの元気な写真が送られてくるたびに、ホームページで紹介しています。参加団体に必要な情報もできるだけ迅速に発信しています。また、協賛・協力会社にとっても魅力的なページとなるよう、各企業情報を積極的に掲載しています。
- ・ 学校外での集票(寄贈マークの拡大)
企業や自治体、個人から、財団に直接届くベルマーク（寄贈マーク）はコロナ禍以降引き続きたくさん寄せられています。財団へ直接マークを寄贈でき、手軽な支援につながることへのPRが功を奏していると考えます。
- ・ ベルマーク大使の活用
現在、10名の大使が就任していただいています。地域での運動の牽引役、熱心な協賛会社の方など多彩な顔ぶれです。それぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にお力添えいただきます。
- ・ 「なるほど！ベルマーク運動」の改訂
財団創立65周年の記念事業のひとつとして、子どもたち向けの小冊子「なるほど！ベルマーク運動」を改訂しました。ベルマーク運動を子どもたちに理解してもらえるよう、運動の役割やしぐみだけでなく、おもしろいウラ話も掲載しています。イベントなどで配布できるよう2万部を印刷しました。

《公益事業2》

2026年度は前年度と同等の見込みの総額4,370万円とします。

- ・ へき地校援助費
ベルマーク運動の原点です。支援学校数は減らさずに、物価高騰等も反映して金額は前年以上の額を援助します（100校に合計1,800万円）。一輪車や理科実験等の教室事業については200万円、あわせて総額2,000万円を計上します。
- ・ 特別支援学校等援助、海外支援団体向け援助（友愛援助）
盲・ろう・養護学校・病院内学級、海外日本人学校、海外支援団体向け援助（友愛援助）への援助は前年度比101.8%。あわせて総額1,120万円を計上します。

- ・ 国内災害復興支援(旧・東北被災校支援)
財団予算から 750 万円を用意します。東日本大震災から 10 年以上経過し、能登半島地震など新たな災害への支援のため、ウェブベルマーク協会からの支援や寄贈マークなども充当して支援を拡大継続します。
- ・ 緊急災害援助
国内外での突発的な災害被害については財団予算から 500 万円を計上します。支援金額は寄贈マークや友愛援助などによって、柔軟に対応します。
- ・ ジブラルタ生命からの寄付
例年へき地校向けの教室事業の充実に 100 万円の申し出を受けており、予算に見込みを算入します。
- ・ ミズノ財団からの寄付
毎年 100 万円以上をいただいております、走り方教室等の費用に算入を見込みます。

《財団運営》

- ・ 財団システムの改修
マークの仕分け・集票作業の簡素化など